

今日の説教のポイント<マタイによる福音書6章12-15節>

①神の愛が分かるためには、その神に対する私たちの「負い目、負債」ということを理解する必要がある。

イエス様は、「私たちの負い目を赦して下さい、私たちもまた私たちに負い目のある人を赦しましたように」と祈るように教えられました。

「負い目」と訳された言葉は、元々は「負債、借金」を意味するギリシア語で、イエス様が話されたアラム語では「罪」をも意味しました。「罪」とは「負債」だと聖書は言うのです。どういう意味なのでしょう？私が洗礼を受ける直前に読んだ本にこういうことが書かれていました。

「罪という言葉は、しばしば負債という同義語で置き換えられる。…それはプラス面の不十分さではなく、マイナスなのである。我々が貧しい隣人に粗末な食事をあてがって、自分は美食するとすれば、それは親切が不十分だということではない。それは、“己のごとく隣人を愛すべし”との債務の不履行なのである。良いことをし足りないのではなく、悪いことをしているのである。」(『カルヴァン』渡辺信夫著より)。

「良いことをし足りないのではなく、悪いことをしているのである」にはショックでしたが、聖書のいう「罪」について初めて少し分かった気がしました。「罪」とは、自分のやっていることと他人のやることを比較するようなことではなく、神との間で考えるべきことだったので。そして、自分が、神が良しとはされないことをやって来たと言われればそうだし、今もやっていると言われればそれもその通りだと思ったのです。「罪人=負債者」の聖書的な意味が少し分かった瞬間でした。

②キリスト教の信仰は、私たちの罪を赦し給う神の愛が先行するが、次には私たちがその愛にお応えして行っていこうとするものでもある。

「私たちが～したように(から)、私たちに～して下さい」と祈るのはおかしいのでは、と思うかもしれませんが、しかし、イエス様は確かにそう教えられています。私たちは今なお罪人です。しかし、その罪が赦されたことを知った者らしく生きるように神様から呼びかけられている存在でもあるのです。ある人が、「神の赦しを祈る者は、自分自身が赦す用意をしなければならぬ」と言っています。「赦せない」ではなく、「赦す」ことに意志をもって取り組んで行きたいと思います。